

2019年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
04010104

1. 計画名称

工業振興ビジョン

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	2018年からの米中貿易摩擦の影響を受け、市内製造業では総体的に受注が減少しているところに、新型コロナウイルスのよりサプライチェーンの寸断もあり、経営基盤及び雇用にも悪影響が予想され、工業振興ビジョン全体の進捗状況に影響が懸念される。
今後の重点化施策番号	1	説明	製造業は、茅野市の発展を牽引する主力産業であり、市内従業者割合では35.1%のウェイトを占めています。製造業の基盤強化への支援は、市勢発展のみならず、働き手の維持の観点からも重点的施策であるべきだと考えます。企業立地と未来への投資に対する施策を重点施策と位置付けます。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	企業の生産基盤強化と立地支援	順調	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業振興補助金案件の大規模設備投資は少なかったものの、政府の働き方改革を踏まえ、労務環境を見直す企業支援に努めた。 丸山工業団地では、1社操業し、2020年にも1社が立地する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業立地相談や空き工場の問い合わせがあるものの、物件不足等にある。 工場のAIoT化に向けた取組が急務である。 工業団地は、造成から30年を超え、調整池や管理地経費が嵩む傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業のAIoT化を促す補助メニューを現行制度で拡充していく。 災害により企業活動が支障を来さないように工業団地内の計画的な整備を森林税事業や中部電力などと連携し進める。
2	企業の育成と人材育成	順調	<ul style="list-style-type: none"> 労働生産性を高める人材育成への支援は概ね目標どおりできた。 受注販路拡大を支援する工業展への支援は、新規契約件数が目標を上回り、企業の受注に繋がった。 ものづくりネット茅野のアクセスが減少したが企業PRIに繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人手不足に悩む中小企業にとって、人材育成に取り組む余裕がない状況にある。 工業展へ出展する新規企業が少なく、オンライン見本市等、新しい生活様式に対応した制度づくりが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の人材育成や技術継承は、長期的な視野が必要であり、工業展への出展補助など、市の支援制度の継続は必要である。 新しい生活様式に対応した受注販路開拓のトレンドを掴み、リアルとデジタルをミックスした制度設計を検討する。
3	新分野・独自技術製品開発等への支援	おおむね順調	<ul style="list-style-type: none"> 補助制度説明会等を開催。4件の相談があった。 コワーキングスペースは開設当初からオフィス、ブースは満室状態を維持している。利用促進イベント等や公立諏訪東京理科大学の包括的協定により、デスクシェアや会議室についても、稼働率は順調に増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> インダストリアルチャレンジできる制度リニューアルをする必要がある。 令和3年度末でコワーキングスペースの指定管理期限が満了することから、以降の運営について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 試作品改良や知財取得のためのメニューを増やしインダストリアルチャレンジを促す。 全国的にテレワークやワーケーション等推進の動きを踏まえ、ワークラボハケ岳を拠点として地域のワーケーション推進体制を構築する。
4	産学公等連携事業の推進	おおむね順調	<ul style="list-style-type: none"> スワリカブランド創造事業は2期目を迎え参加事業者数、開発件数とも順調に増加する等、目標に向けた良い成果が出ている。 産業振興プラザの運営においては、企業訪問数等は横ばいだが、受発注具体化検討数や事業承継ヒアリング等、質面での充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> スワリカブランド創造事業は、地方創生推進交付金の補助期間終了後に向けた自立化を検討する必要がある。 産業振興プラザの運営においては、国の動向も踏まえ事業承継問題に注力し、商工会議所や県と連携した支援活動につなげていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者と一体で進める産学公連携体制を自立化させていき、生み出された成果の発信や人材育成、呼び込みの継続を図る。 プラザ運営では、新型コロナウイルス感染症の影響、事業承継問題など適時求められる支援制度の情報発信と相談対応等、関係機関と連携して実施する。

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	茅野商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> 工業用地の確保をお願いしたい。 工業補助事業の継続をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規工業用地の予定はないが、オーダーメイドの支援は継続していく。 工業補助事業については、工業振興ビジョンに位置付けられていことから制度の維持に努めていく。
開催回数	12		
参加延べ人数	32		
関連市民団体等名称	茅野市工業振興協議会	<ul style="list-style-type: none"> 市制度補助金はありがたいが、インダストリアルチャレンジのできるメニューの拡充を検討していただきたい。 零細企業も取り組める補助事業のメニューを拡充していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> インダストリアルチャレンジの原点に立ち返った補助メニューの見直しを行う。 事業者の要望や第4次産業革命に対応した補助制度設計を行っていく。
開催回数	2		
参加延べ人数	34		

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」